

# (福)ひがし福祉会

中津川市・障がい福祉

従業員数 / 男性38名 女性109名 計147名 ※令和7年10月現在

エクセレント  
POINT

- ①面談を通じて職員の思いや現状に丁寧に対応
- ②地域社会への感謝を大切に、地域に根差した活動を実施
- ③職員の状況に応じた雇用形態の柔軟な変更



地域と施設の大切な交流の場にもなっている「生活の家まつり」。

## 職員の要望や雇用形態に柔軟に対応

ひがし福祉会では、職員の希望を把握して風通しの良い職場とするために、各部署の上司による面談を実施。さらに、入社間もない職員は、求人担当者などによる面談も行い、仕事からプライベートまで気軽に話ができる環境を大切にしている。

面談を通じて職員に寄り添った例として、事務職の職員が退職を考えていることを把握した際は、人と関わるのが好きな特性を生かせたらと生活相談員を勧め、

必要な資格が取得できるようにサポート。現在も生活相談員として勤務している。

地域とのつながりも大切にしており、地域のお年寄りを招いた「敬老会」や子どもたちも参加する「生活の家まつり」などの行事を開催。生活の家まつりは多くの来場者があり、地域住民だけでなく職員の家族にとっても仕事場を見られる貴重な場にもなっている。コロナ禍で行事の実施が難しかった間も、インスタグラムを活用し情報発信するなど、工夫しながら地域とのつながりを築いてきた。

雇用形態では、育児、介護など家庭環境の変化や健康問題などで職員が働き方の変更を申し出た場合に柔軟に対応。正規職員から嘱託やパートに雇用形態を変えて働き続けることや、そこから正規職員に復帰することも可能で、中に



子育て中は嘱託、現在は正規職員に戻り、2025年には第二生活の家の所長として働く林泉さん(左)。

は復帰後、管理職として活躍する職員もいる。結婚、出産をきっかけに嘱託となり、現在は正規職員に戻って所長として働く林泉さんは「子どもが小さいうちは夜勤や変則勤務を外してもらおうなどしてもらえてありがたかった」と職場の対応に感謝する。宇野正弘部長は「今後もコミュニケーションを大切にしながら、職員の働く環境を整えていきたい」と話す。